

ボランティア活動に関する 意識・実態調査報告書

2011年7月

財団
法人 経済広報センター

はじめに

ボランティア活動は個人の自発的な意思に基づく自主的な活動です。活動者個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるだけでなく、社会においてはその活動の広がりによって、社会貢献、福祉活動などへの関心が高まります。また、様々な構成員が共に支え合い、交流する地域社会づくりが進むなど、大きな意義を持っています。東日本大震災からの復旧・復興においても災害ボランティアに対する期待が高まっています。

そこで、経済広報センターは全国の様々な職種、世代により構成されている当センターの「社会広聴会員」約4,500名のうち、インターネットで回答可能な約3,000名を対象に、ボランティア活動に関する調査を実施いたしました。

今回の調査では、9割以上の方がボランティア活動が盛んになることを評価するとともに、8割以上の方が自身でも参加したいと思っていることが確認できました。とはいえ、身近な所に適当な活動の場がなかったり、忙しくて時間が取れなかったりなどによって経験者は3分の2であることも分かりました。今後ボランティア活動が盛んになるための条件として「ボランティア休暇など企業の支援施策」「国や地方自治体による情報提供、相談窓口開設などの活動」「ボランティア活動団体の整備・充実」などが指摘されています。

また、東日本大震災を契機に7割近くの方がボランティア活動への意識が高まったと回答しています。

本報告書が、一人ひとりの心を地域社会の活性化や社会貢献へとつなげるきっかけとなれば、そして東日本大震災からの復旧・復興に携わる方々のご参考となれば幸甚です。

財団法人経済広報センター
常務理事・事務局長

中山 洋

目 次

はじめに	1
調査結果の概要	4
調査結果データ	
1. ボランティア活動の経験の有無	10
2. 経験した活動	11
3. 活動のきっかけ	13
4. ボランティア活動をして感じたこと	15
5. ボランティア活動をしなかった・できなかった理由	16
6. 東日本大震災によるボランティア活動への意識の変化	18
7. ボランティア活動への参加意向	19
8. 参加したいボランティア活動	20
9. 参加したい活動エリア	23
10. 参加する目的	25
11. ボランティア活動が盛んになることへの賛否	28
12. ボランティア活動が盛んになるための条件	29
13. 有償ボランティアの是非	31
14. 寄付を行う動機	32

調査結果の概要

1. 「ボランティア活動経験あり」が6割を超える

「現在ボランティア活動を行っている」(27%)と「過去にボランティア活動をしたことがある」(38%)との回答を合わせると6割を超えている。

世代が上がるほど「現在ボランティア活動を行っている」割合が高くなっているが、近年、ボランティア活動が学校課程で取り上げられてきており、「過去にボランティア活動をしたことがある」割合は29歳以下が最も高い。

2. ボランティア経験者のうち「地域コミュニティーにかかわる活動」を58%が経験

ボランティア活動を経験した回答者を対象に、経験したボランティア活動を聞いたところ、「地域コミュニティーにかかわる活動(美化・防犯・防災など)」(58%)、「公的イベント運営協力など、スポーツ・文化・芸術分野での活動」(35%)の割合が高い。

男女別では、女性の第3位である「保育などを含む幼児、児童を対象とする活動」(30%)が男性では第7位(12%)となっているのに対し、男性の第3位「環境保護・自然保護にかかわる活動」(25%)は女性では第6位(17%)となっている。

3. 活動のきっかけは「所属する町内自治会、市民団体などの活動の一環」が経験者の34%

初めてボランティア活動に参加するきっかけとなった理由として「所属する町内自治会、市民団体などの活動の一環」との回答が経験者の34%。次いで「友人や家族からの誘い」(20%)が挙げられている。

60歳以上では、他の世代に比べ「ボランティア活動団体の呼び掛け」や「ニュースなどで知って、直接行動を起こした」も多い。

4. 9割以上が「時間を有意義に過ごせた」「活動をして楽しかった」

ボランティア活動を通して感じたことを聞いたところ、経験者の9割以上が「時間を有意義に過ごせた」(91%)、「活動をして楽しかった」(90%)と答えている。一方で「生きがいを見つけられた」「社会的な評価を得られた」と思うと答えたのは半数以下である。

5. ボランティア活動をしなかった・できなかった理由は「身近な所に適当な活動の場がなかった」が半数以上

「ボランティア活動の経験はない」と回答した人に理由を聞くと、半数以上(53%)が「身近な所に適当な活動の場がなかった」と回答している。次いで「忙しくて時間が取れなかった」が45%。なお「ボランティア活動に興味がなかった」と答えた人は19%、「そもそも活動したくない」は4%である。

29歳以下では「ボランティア活動に参加する方法が分からなかった」「そもそも活動したくない」も目立っている。

6. 東日本大震災により67%がボランティア活動への意識が高まる

このたびの東日本大震災をきっかけとして、ボランティア活動に対する意識が「高まった」(24%)と「ある程度高まった」(43%)の総計は67%に達している。

7. 83%がボランティア活動へ参加したいとの意向

今後ボランティア活動に「参加したい」(19%)と「機会があれば参加したい」(64%)の総計は83%に達している。

8. ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加したい活動内容は「地域コミュニティーにかかわる活動(美化・防犯・防災など)」が56%、経験した活動で第4位だった「環境保護・自然保護にかかわる活動」が47%で第2位

ボランティア活動に参加する意向がある人に、参加したい活動内容を聞いたところ、「地域コミュニティーにかかわる活動(美化・防犯・防災など)」が56%で、経験した活動と同じく第1位だった。経験した活動で第4位だった「環境保護・自然保護にかかわる活動」は約半数の47%で第2位となった。

9. ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加したい活動エリアを通勤・通学圏外までとする人が約半数、12%は海外も可

ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加したい活動エリアは、「町内(町内会程度の範囲もしくは最寄り駅が同じ範囲)まで」「市区町村内まで」「通勤・通学圏内まで」の総計は51%となっているが、その一方で、その範囲を超えた回答も半数に近い。そのうち「海外も可」との回答は12%となっている。

10. ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加する目的は「社会のために役に立てる」が61%

ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加する目的は「社会のために役に立てる」が61%となっている。以下、「自分の知識・技術・能力・経験を生かす」「活動そのものを楽しむ」「困っている人の役に立てる」「自分が人間として成長できる」が30%台で続いている。

11. ボランティア活動が盛んになることに「賛成(賛成／どちらかといえば)」が92%

ボランティア活動が盛んになることに「賛成」との回答は62%、「どちらかといえば賛成」(30%)を合わせると92%が評価している。

12. ボランティア活動が盛んになるための条件は「ボランティア休暇など企業の支援施策」が45%

ボランティア活動が盛んになるための条件として、「ボランティア休暇など企業の支援施策」との回答が45%と最も多い。次いで「国や地方自治体による情報提供、相談窓口開設などの活動」「ボランティア活動団体の整備・充実」「ボランティア活動に対する職場の理解」「ボランティア活動の斡旋・紹介機能の強化」が30%台後半で続く。

13. 94%が有償ボランティアを容認

有償ボランティアの是非については、「活動によっては有償でもよい」との回答が63%、「無償であるべきだが、やむを得ない場合のみ有償でもよい」が31%と、合わせて94%が有償ボランティアを認めている。

14. 寄付を行う動機は「困っている人の役に立ちたい」「社会の役に立ちたい」が半数以上

寄付を行う動機は、「困っている人の役に立ちたい」が82%、「社会の役に立ちたい」が53%と半数を超えている。

- ・調査対象：3,171人
- ・調査方法：インターネットによる回答選択方式および自由記述方式
- ・調査期間：2011年5月19日～5月30日
- ・有効回答：1,983人（62.5%）
- ・回答者の属性：
 - 男女別：男性（860人、43.4%）、女性（1,123人、56.6%）
 - 世代別：29歳以下（126人、6.4%）、30歳代（269人、13.6%）、40歳代（490人、24.7%）、50歳代（493人、24.9%）、60歳以上（605人、30.5%）
 - 職業別：会社員・団体職員・公務員（836人、42.2%）、会社役員・団体役員（92人、4.6%）、自営業・自由業（157人、7.9%）、パートタイム・アルバイト（251人、12.7%）、専業主婦・夫（345人、17.4%）、学生（28人、1.4%）、無職・その他（274人、13.8%）

この調査では、有償・無償を問わず下記のような活動を「ボランティア活動」と定義する。ただし、就業体験や知識・経験・技術の習得を主目的とするものは除く。役務の提供が対象。

地域コミュニティにかかわる活動（美化・防犯・防災など）
 公的イベント運営協力など、スポーツ・文化・芸術分野での活動
 保育などを含む幼児、児童を対象とする活動
 青少年の指導・育成（青少年スポーツクラブなど含む）
 高齢者の介護や支援
 障がい者の介護や支援
 在日外国人に対する教育や生活情報サービスなど
 地域活性化にかかわる活動（観光ボランティアガイド、語り部など）
 環境保護・自然保護にかかわる活動
 難民救済や開発援助など海外における国際支援活動
 災害救助や被災者支援の活動

なお、購入した物品や金銭を提供するのみの行為は「寄付」と定義する。（提供する物品が手作りのものである場合は役務の提供とみなし、「ボランティア活動」に含める。）

調査結果 データ

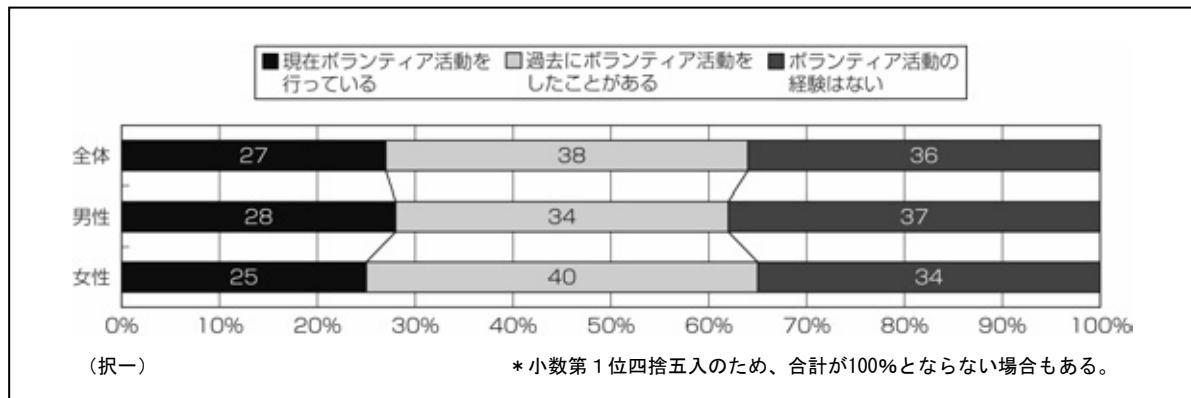
1. ボランティア活動の経験の有無

「ボランティア活動経験あり」が6割を超える

「現在ボランティア活動を行っている」(27%)と「過去にボランティア活動をしたことがある」(38%)との回答を合わせると6割を超えている。(図1)

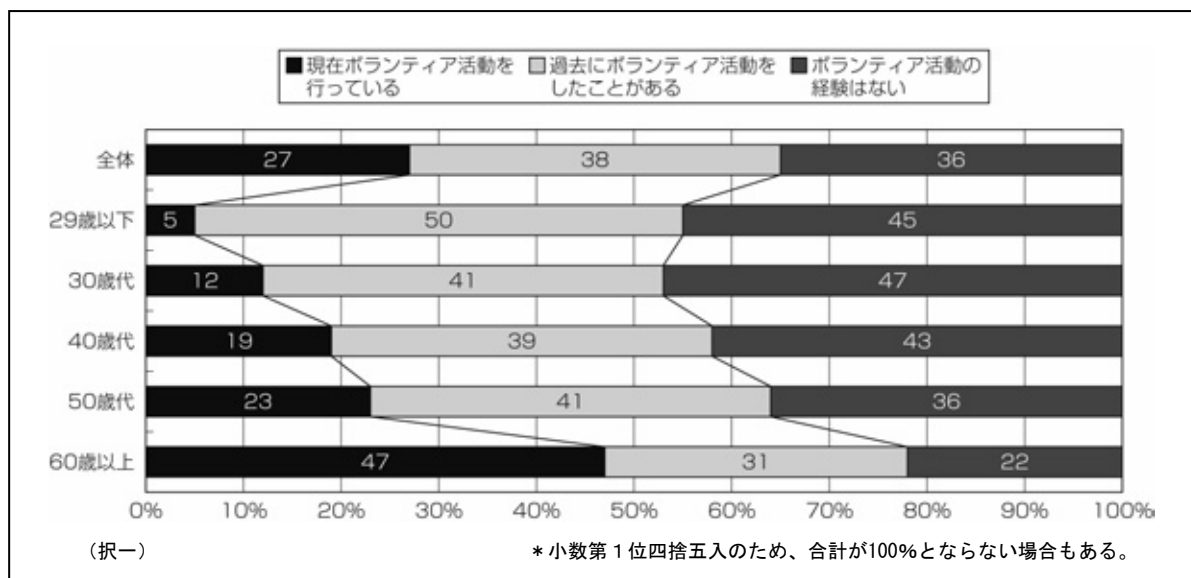
男女別(図1)では、「現在ボランティア活動を行っている」と回答した割合は男性の方が高いが、「過去にボランティア活動をしたことがある」との回答は女性の方が6ポイント高く、活動経験の有無で比較すると女性の方がより経験者が多い。

図1 ボランティア活動の経験の有無(全体・男女別)



世代別(図2)では、世代が上がるほど「現在ボランティア活動を行っている」割合が高くなっているが、近年、ボランティア活動が学校課程で取り上げられてきており、「過去にボランティア活動をしたことがある」割合は29歳以下が最も高い。

図2 ボランティア活動の経験の有無(全体・世代別)



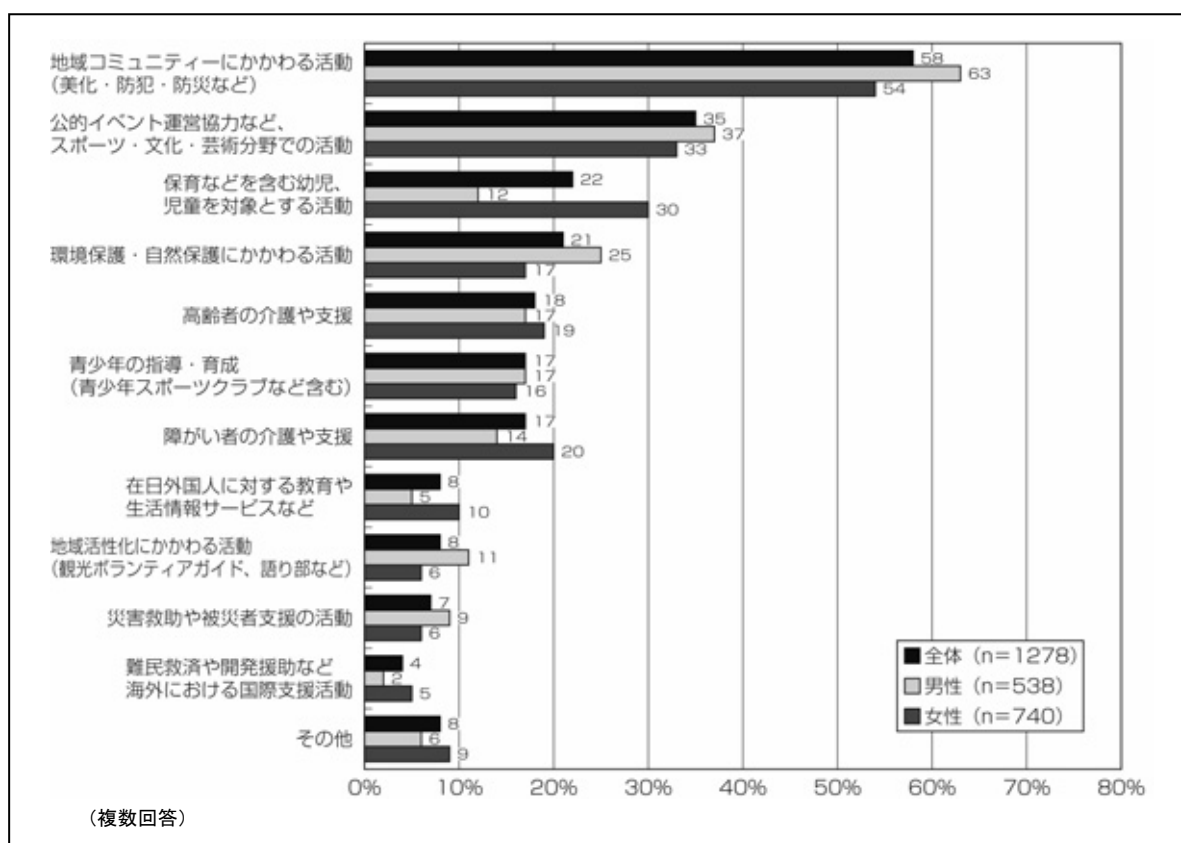
2. 経験した活動

ボランティア経験者のうち「地域コミュニティにかかわる活動」を58%が経験

ボランティア活動を経験した回答者を対象に、経験したボランティア活動を聞いたところ、「地域コミュニティにかかわる活動（美化・防犯・防災など）」（58%）、「公的イベント運営協力など、スポーツ・文化・芸術分野での活動」（35%）の割合が高い。（図3）

男女別（図3）では、女性の第3位である「保育などを含む幼児、児童を対象とする活動」（30%）が男性では第7位（12%）となっているのに対し、男性の第3位「環境保護・自然保護にかかわる活動」（25%）は女性では第6位（17%）となっている。

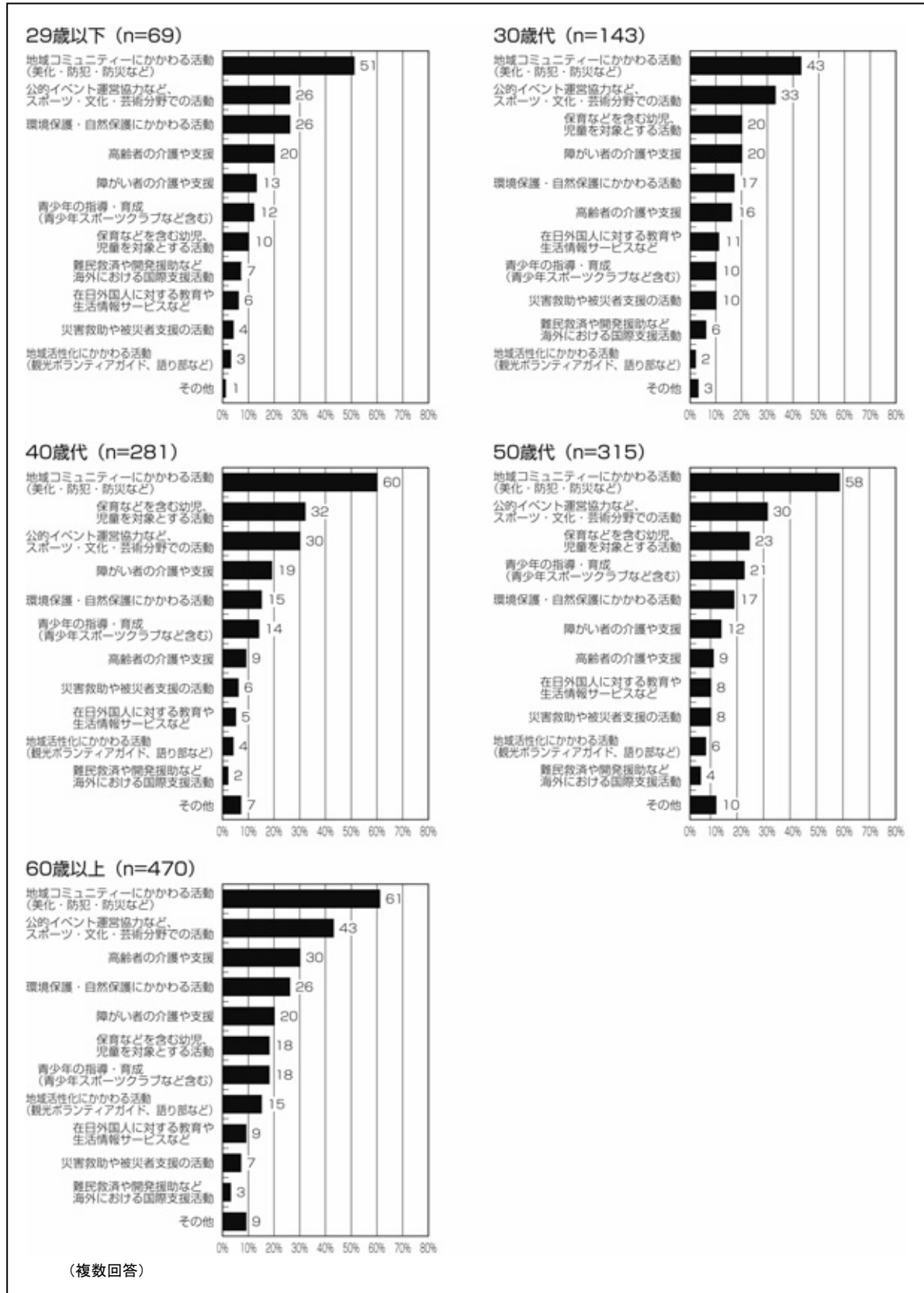
図3 経験した活動（全体・男女別）



世代別（図4）では、いずれの世代でも「地域コミュニティにかかわる活動（美化・防犯・防災など）」が第1位であり、40歳以上では6割前後と高い割合になっている。次いで「公的イベント運営協力など、スポーツ・文化・芸術分野での活動」が第2位（40歳代のみ第3位）となっている。30歳代から50歳代までは第2位もしくは第3位となっている「保育などを含む幼児、児童を対象とする活動」は、29歳以下で第7位（10%）、60歳以上で第6位（18%）であり、逆に「高齢者の介護や支

援」が30歳代から50歳代までの第6位または第7位となっているのに対し、29歳以下で第4位（20%）、60歳以上で第3位（30%）と異なる結果となった。（図4）

図4 経験した活動（世代別）



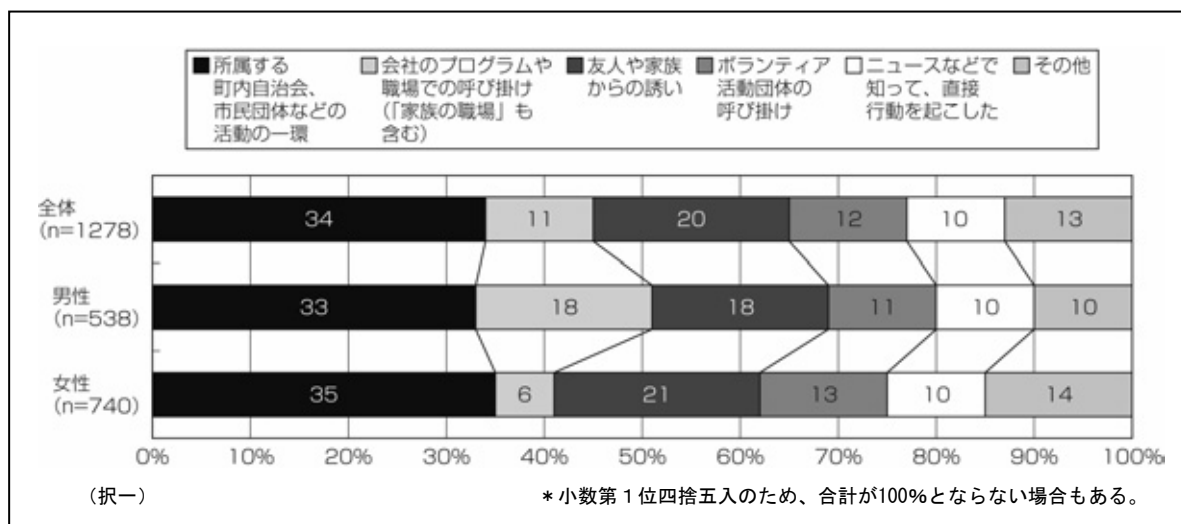
3. 活動のきっかけ

活動のきっかけは「所属する町内自治会、市民団体などの活動の一環」が経験者の34%

初めてボランティア活動に参加するきっかけとなった理由として「所属する町内自治会、市民団体などの活動の一環」との回答が経験者の34%。次いで「友人や家族からの誘い」(20%)が挙げられている。(図5)

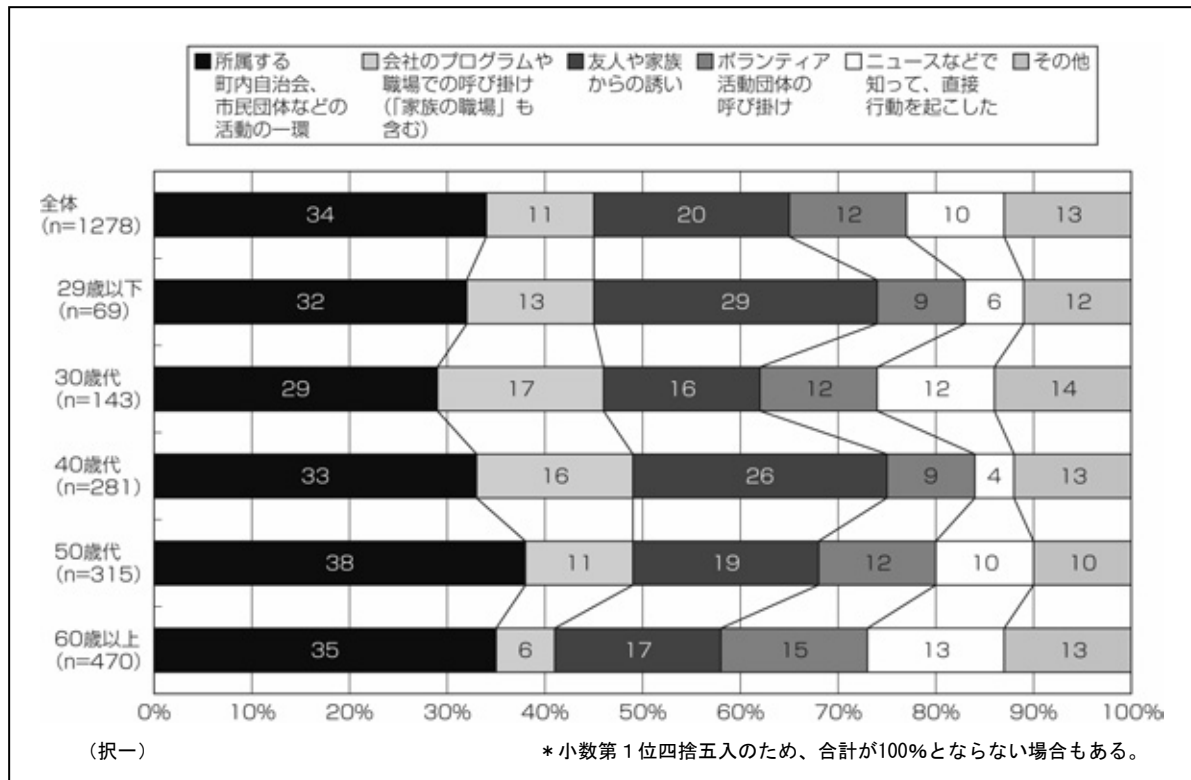
男女別(図5)で大きく異なったのは「会社のプログラムや職場での呼び掛け(「家族の職場」も含む)」で、男性が「友人や家族からの誘い」と同じ18%となっているのに対し、女性では「友人や家族からの誘い」が21%で「会社のプログラムや職場での呼び掛け(「家族の職場」も含む)」は6%と少なくなっている。

図5 活動のきっかけ(全体・男女別)



世代別（図6）で見ると、いずれの世代でも「所属する町内自治会、市民団体などの活動の一環」との回答が最も多く、30歳代以外は「友人や家族からの誘い」が次いで挙げられた。30歳代は「会社のプログラムや職場での呼び掛け（「家族の職場」も含む）」が若干高い。60歳以上では、他の世代に比べ「ボランティア活動団体の呼び掛け」や「ニュースなどで知って、直接行動を起こした」も多い。

図6 活動のきっかけ（全体・世代別）



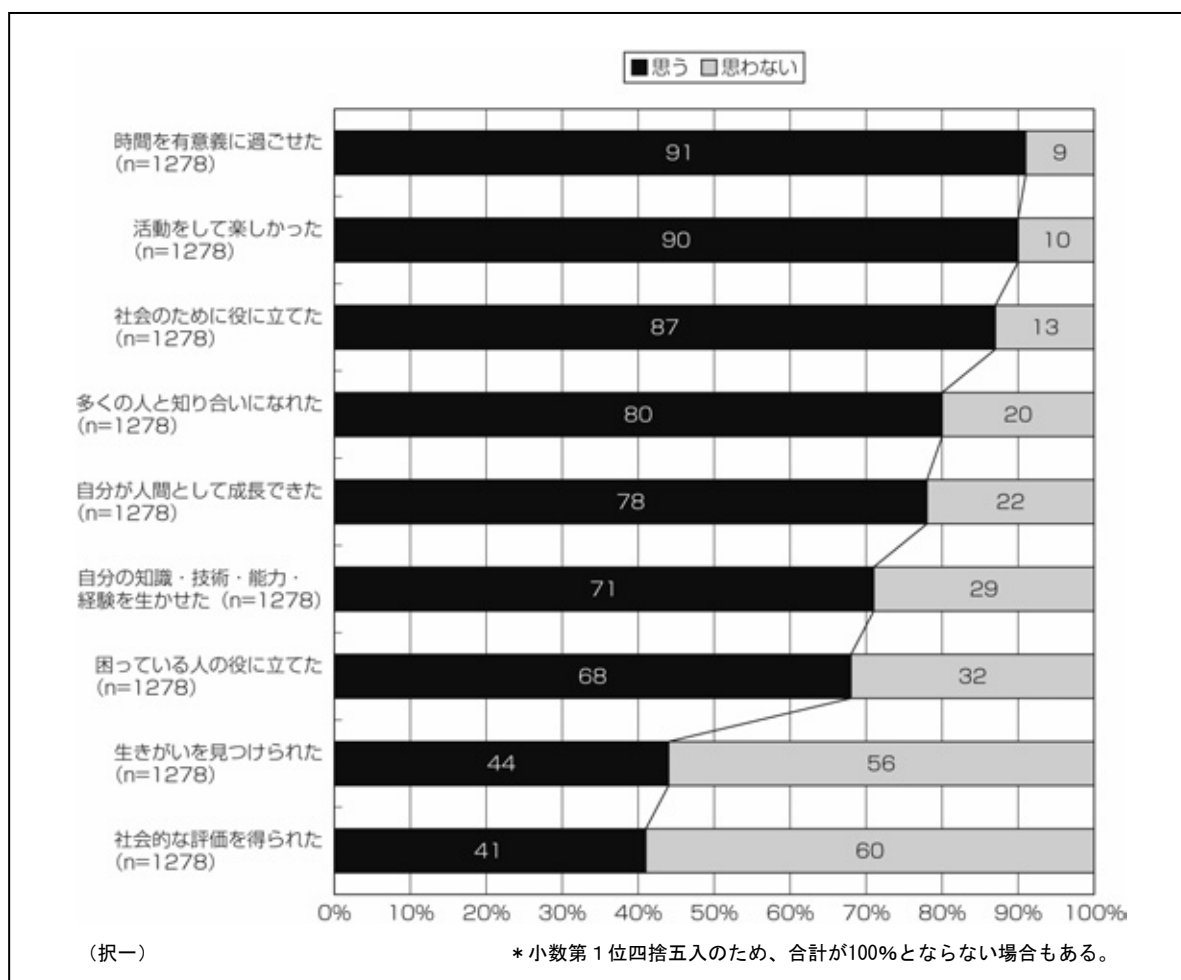
4. ボランティア活動をして感じたこと

9割以上が「時間を有意義に過ごせた」「活動をして楽しかった」

ボランティア活動を通して感じたことを聞いたところ、経験者の9割以上が「時間を有意義に過ごせた」(91%)、「活動をして楽しかった」(90%)と答えている。

「社会のために役に立てた」など、他の5項目に対しても、「そう思う」と答えた割合は高かったが、「生きがいを見つけられた」「社会的な評価を得られた」の2項目については、「そう思う」と答えたのは半数以下である。(図7)

図7 ボランティア活動をして感じたこと (全体)



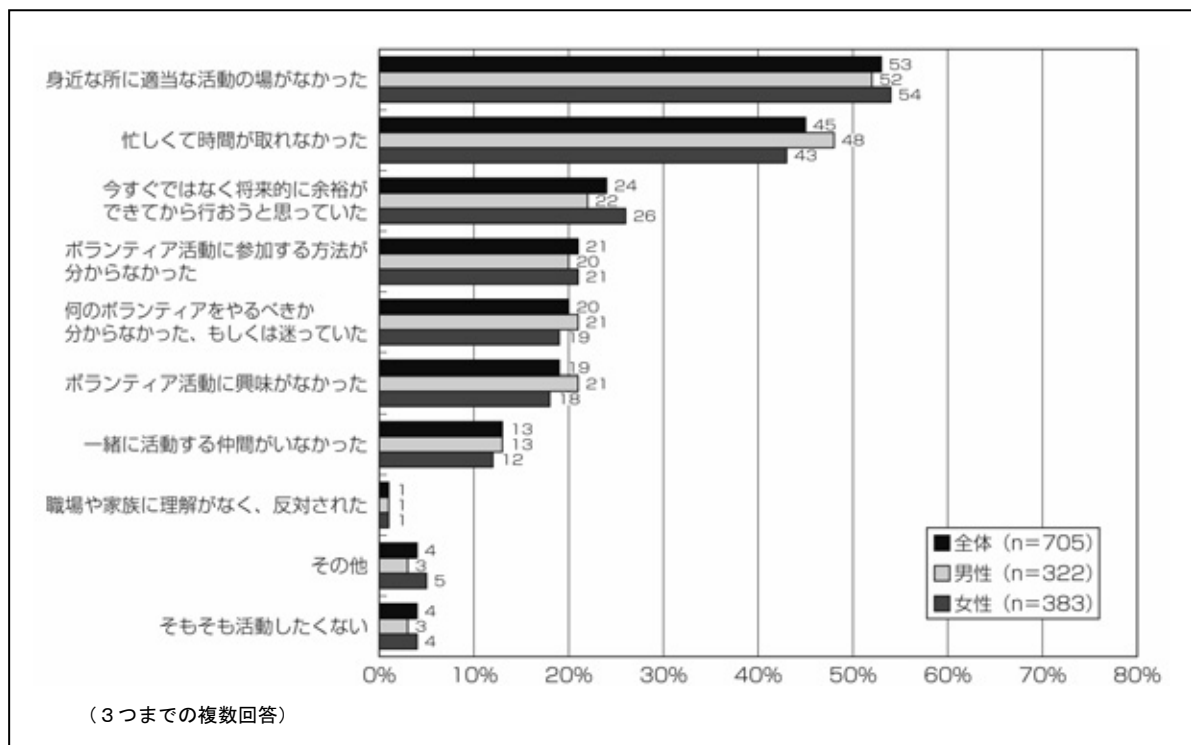
5. ボランティア活動をしなかった・できなかった理由

ボランティア活動をしなかった・できなかった理由は「身近な所に適切な活動の場がなかった」が半数以上

「ボランティア活動の経験はない」と回答した人に理由を聞くと、半数以上(53%)が「身近な所に適切な活動の場がなかった」と回答している。次いで「忙しくて時間が取れなかった」が45%。なお「ボランティア活動に興味がなかった」と答えた人は19%、「そもそも活動したくない」は4%である。(図8)

男女別(図8)でもほぼ同じ結果となったが、「忙しくて時間が取れなかった」は男性(48%)の方が女性(43%)より5ポイント高い。

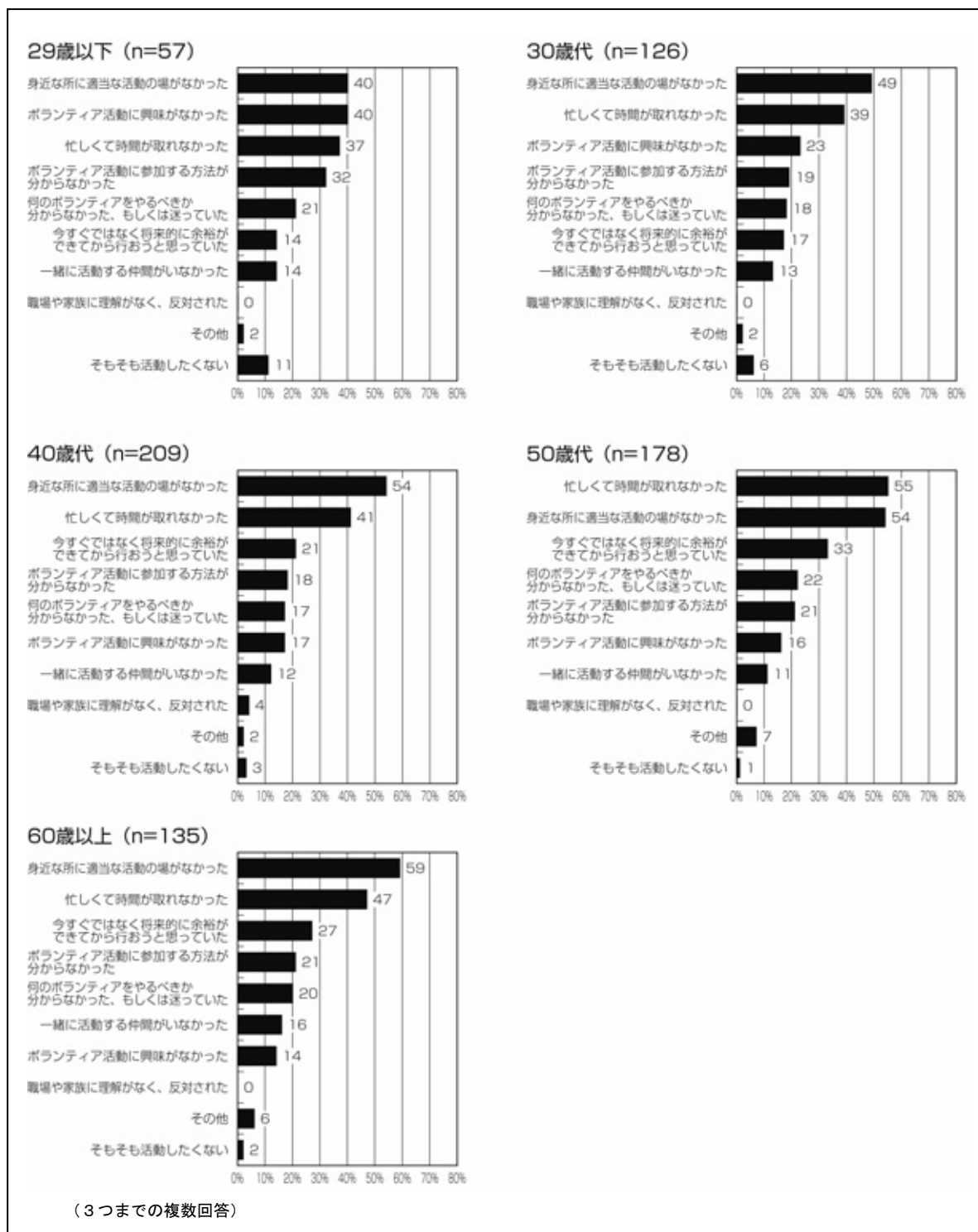
図8 ボランティア活動をしなかった・できなかった理由(全体・男女別)



世代別(図9)では、いずれの世代でも「身近な所に適切な活動の場がなかった」が多いが、29歳以下では「ボランティア活動に興味がなかった」が同じ割合となっているほか、50歳代では「忙しくて時間が取れなかった」が半数を超え1位となっている。

29歳以下では「ボランティア活動に参加する方法が分からなかった」「そもそも活動したくない」も目立っている。

図9 ボランティア活動をしなかった・できなかった理由（世代別）

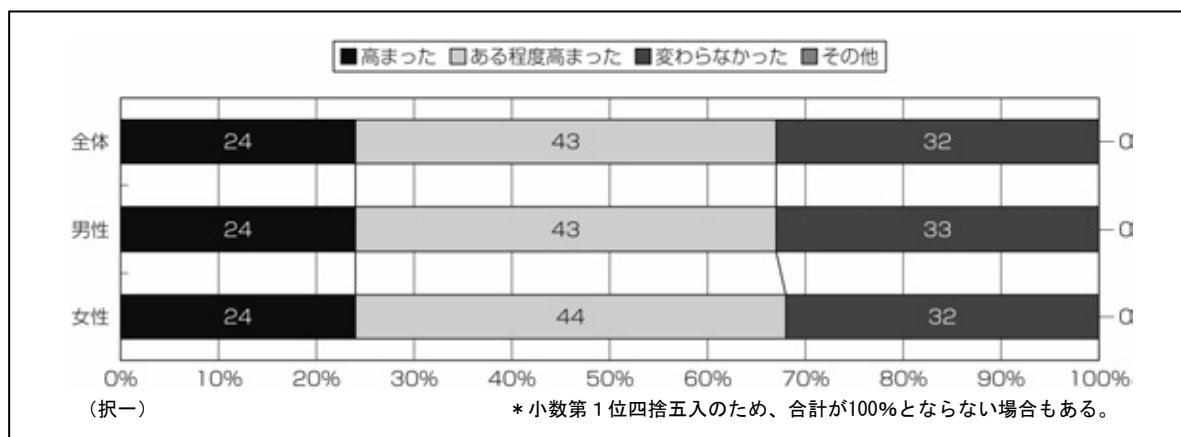


6. 東日本大震災によるボランティア活動への意識の変化

東日本大震災により67%がボランティア活動への意識が高まる

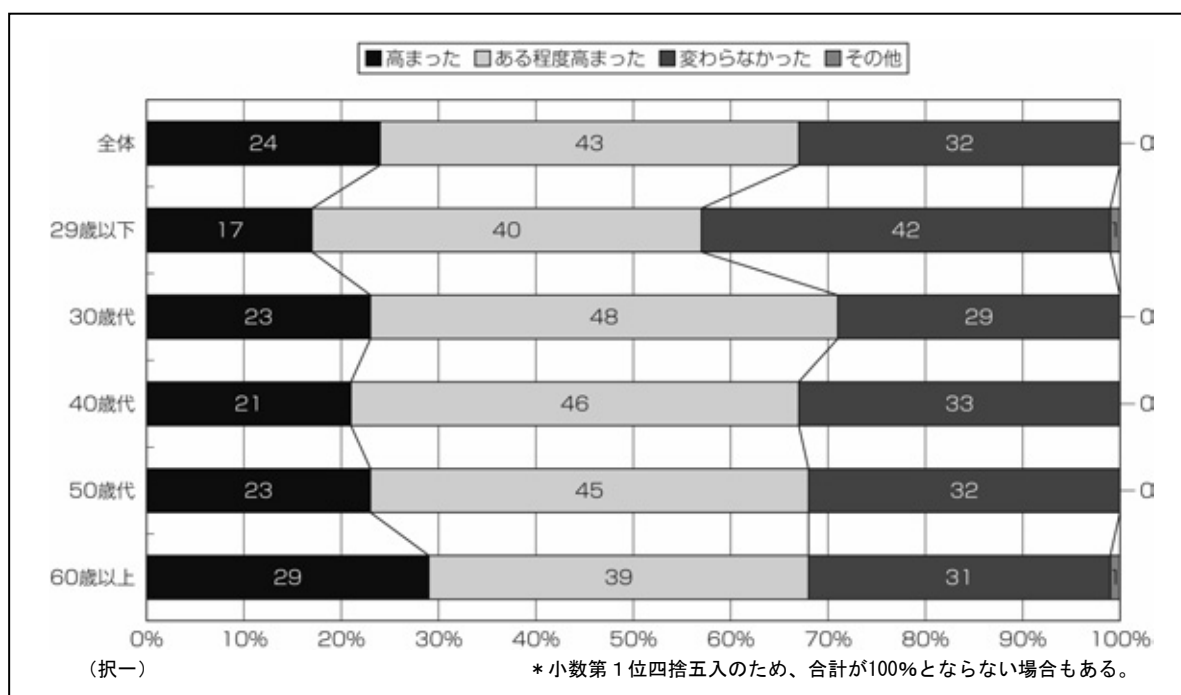
このたびの東日本大震災をきっかけとして、ボランティア活動に対する意識が「高まった」(24%)と「ある程度高まった」(43%)の総計は67%に達している。(図10) 男女別(図10)でもほとんど同じ割合だった。

図10 東日本大震災によるボランティア活動への意識の変化(全体・男女別)



世代別(図11)で見ると、「変わらなかった」との回答は30歳以上では3割前後なのに対し、29歳以下では42%となっている。「高まった」人も他の世代に比べ低い割合にとどまった。

図11 東日本大震災によるボランティア活動への意識の変化(全体・世代別)



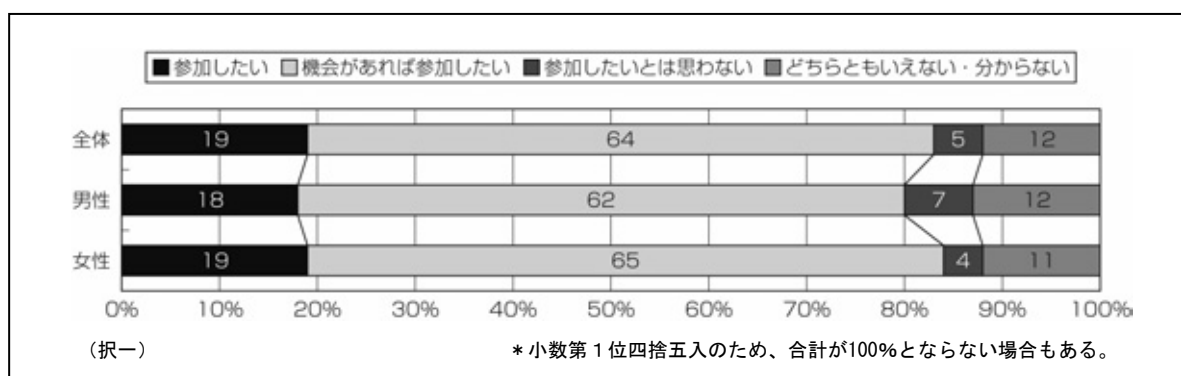
7. ボランティア活動への参加意向

83%がボランティア活動へ参加したいとの意向

今後ボランティア活動に「参加したい」(19%)と「機会があれば参加したい」(64%)の総計は83%に達している。(図12)

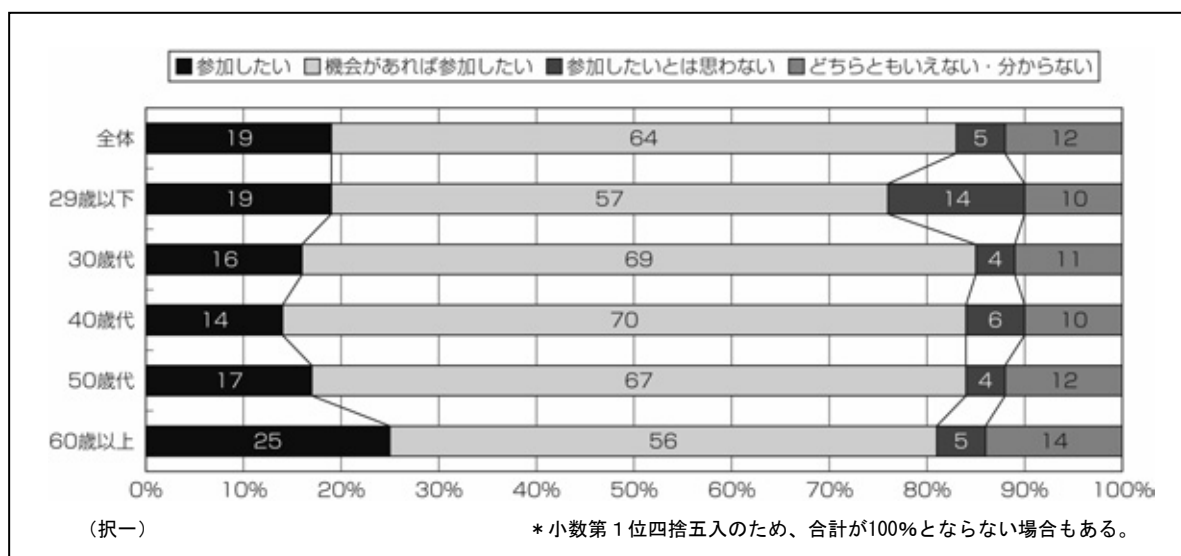
男女別(図12)で見ると、「参加したいとは思わない」割合は女性(4%)より男性(7%)の方が3ポイント高い。

図12 ボランティア活動への参加意向(全体・男女別)



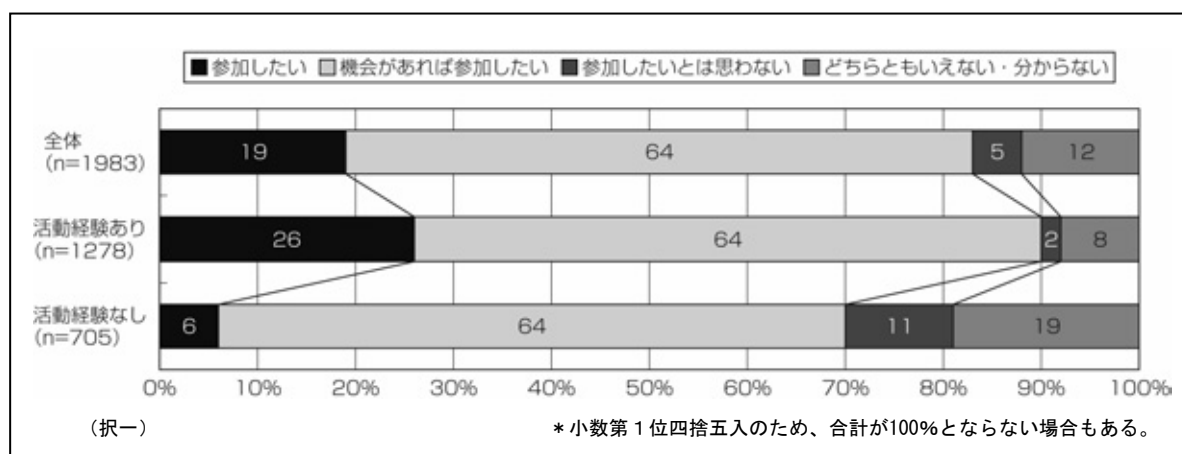
世代別(図13)では、「参加したい」との回答は29歳以下(19%)と60歳以上(25%)が30~50歳代に比べて高い割合となっている。「参加したいとは思わない」との回答は、他の世代が5%前後であるのに対し、29歳以下では14%である。「どちらともいえない・分からない」との回答は世代が上がるほど増加する傾向が見られる。

図13 ボランティア活動への参加意向(全体・世代別)



ボランティア活動の経験の有無別（図14）では、活動経験なしとの回答者では「参加したい」（6%）、「機会があれば参加したい」（64%）の総計が70%であるのに対し、活動経験ありとの回答者は「参加したい」（26%）、「機会があれば参加したい」（64%）の総計は90%に達する。活動経験がない人の方が「参加したいとは思わない」と回答した割合が高い。一方、「どちらともいえない・分からない」との回答も活動経験がある人が8%であるのに対し、活動経験がない人は19%と高くなっている。

図14 ボランティア活動への参加意向（全体・活動経験別）



8. 参加したいボランティア活動

ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加したい活動内容は「地域コミュニティにかかわる活動（美化・防犯・防災など）」が56%、経験した活動で第4位だった「環境保護・自然保護にかかわる活動」が47%で第2位

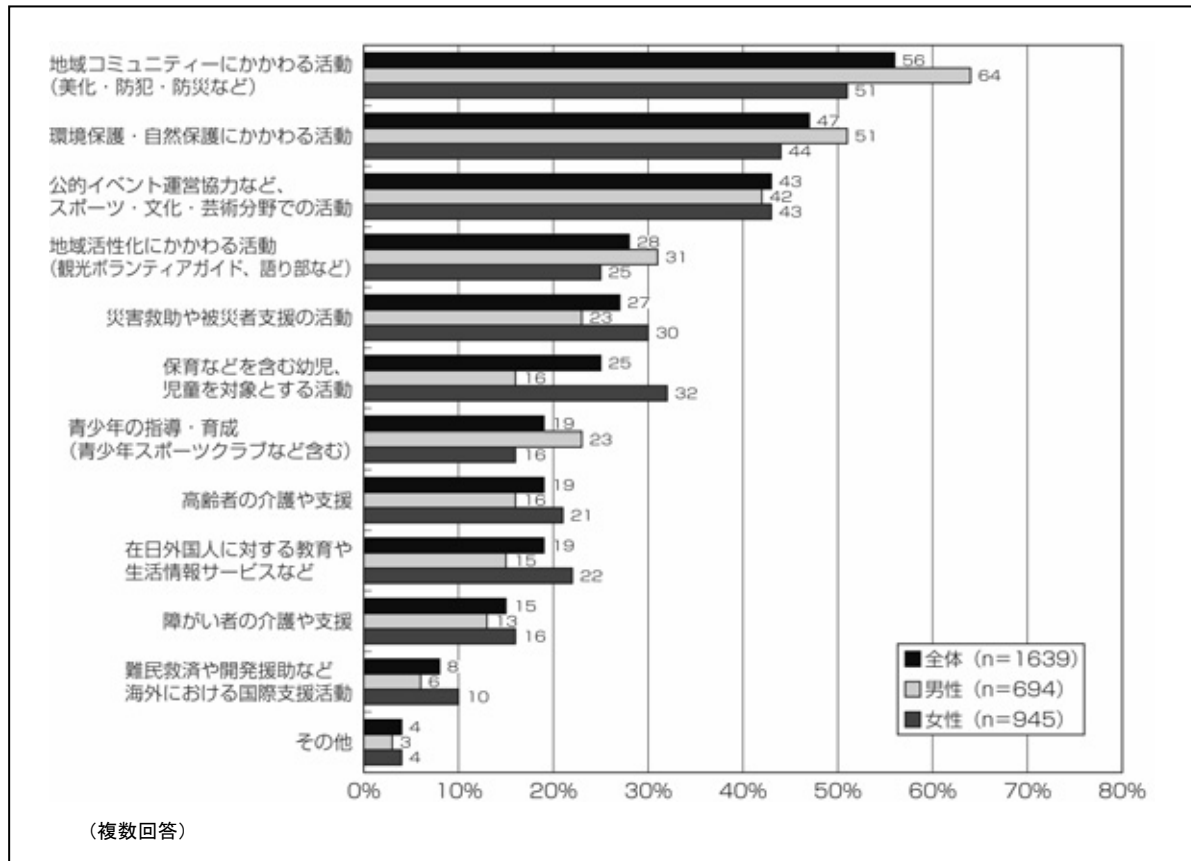
ボランティア活動に参加する意向がある人に、参加したい活動内容を聞いたところ、「地域コミュニティにかかわる活動（美化・防犯・防災など）」が56%で、経験した活動（図3）と同じく第1位だった。経験した活動で第4位だった「環境保護・自然保護にかかわる活動」は約半数の47%で第2位となった。

経験した活動に比べ参加意向の回答率が高くなっているのは、「地域コミュニティにかかわる活動（美化・防犯・防災など）」「障害者の介護や保護」を除くすべての項目である。特に、「環境保護・自然保護にかかわる活動」「地域活性化にかかわる活動（観光ボランティアガイド、語り部など）」「災害救助や救済者支援の活動」で、その傾向が顕著に表れている。

経験した活動と参加意向の比較では、男女ともほぼ同じ傾向が見られる。経験し

た活動での男女差は参加意向でも同じように出ている。ただし「災害救助や被災者支援の活動」は経験割合では男性の方が3ポイント高いのに対し、参加意向では女性の方が7ポイント高くなっている。(図15)

図15 参加したいボランティア活動（全体・男女別）



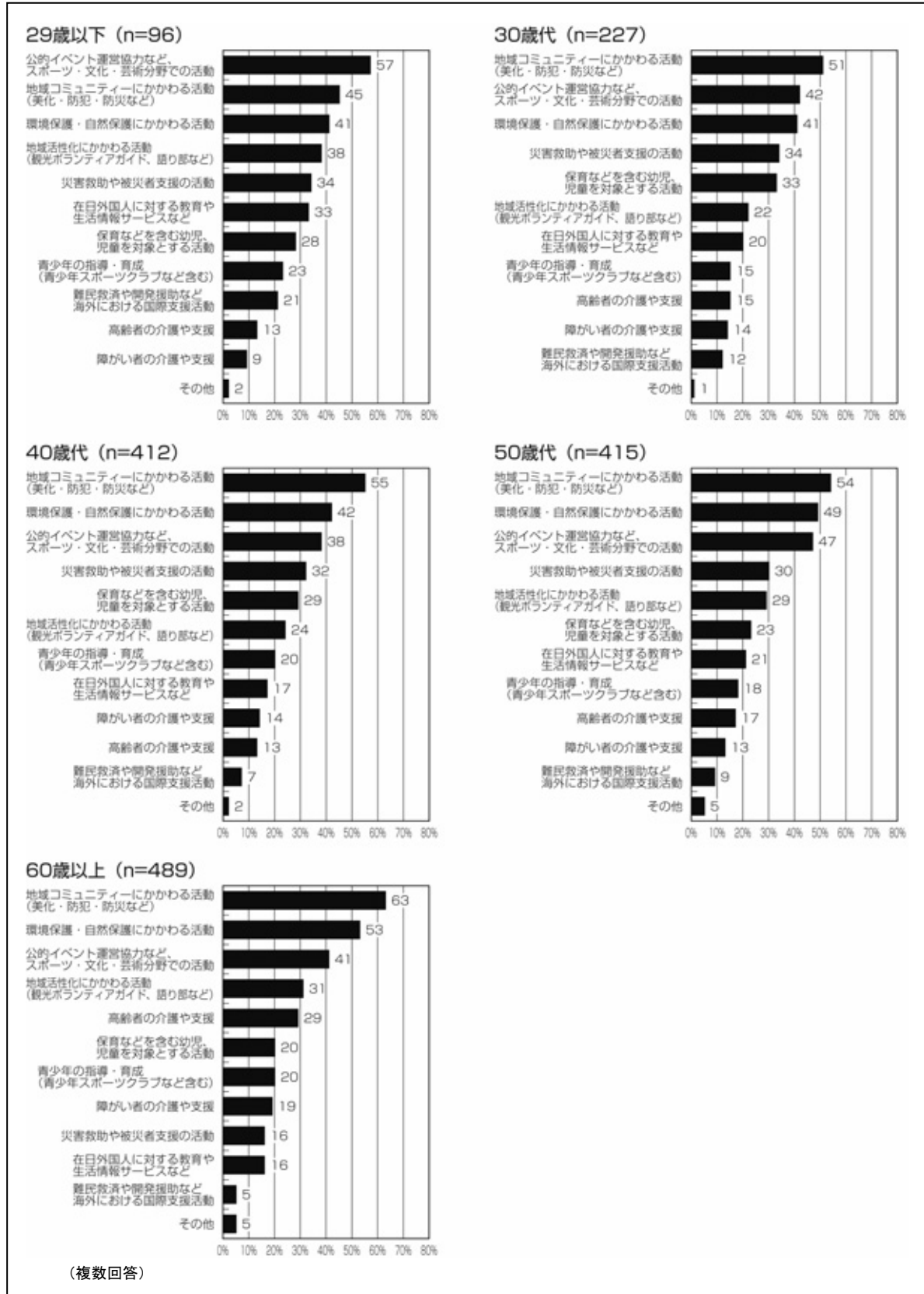
世代別 (図16) で見ると、全体で第1位、第2位の「地域コミュニティにかかわる活動 (美化・防犯・防災など)」「環境保護・自然保護にかかわる活動」とも世代が上がるに伴ない参加意向が高まる傾向がある。上位3位に入る活動は世代別でも変わらないものの、29歳以下では「公的イベント運営協力など、スポーツ・文化・芸術分野での活動」が第1位、30歳代でも第2位となっている。

「地域活性化にかかわる活動 (観光ボランティアガイド、語り部など)」は30歳以上では世代が上がるに伴ない参加意向が高くなっているが、最も意向があるのは29歳以下である。「災害救助や被災者支援の活動」は若い世代ほど参加意向が高い。

経験した活動 (図4) に比べ、参加意向が高くなっているのは、すべての世代で「地域活性化にかかわる活動 (観光ボランティアガイド、語り部など)」である。「災害救助や被災者支援の活動」でも同様の傾向が見られる。また、30歳以上では「環境保護・自然保護にかかわる活動」、29歳以下で「公的イベント運営協力など、スポ

ーツ・文化・芸術分野での活動」「在日外国人に対する教育や生活情報サービスなど」の参加意向が高くなっている。

図16 参加したいボランティア活動（世代別）



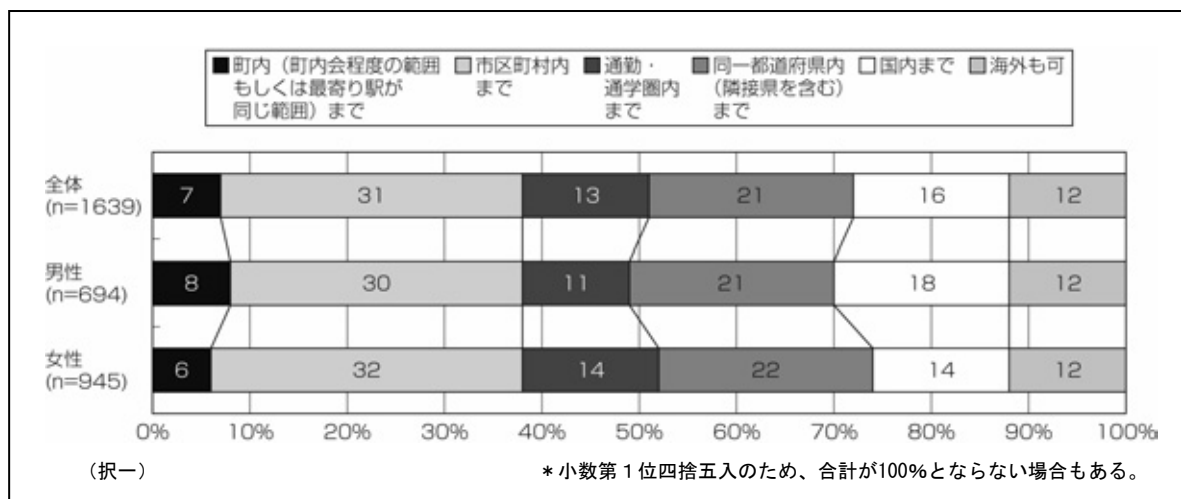
9. 参加したい活動エリア

ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加したい活動エリアを通勤・通学圏外までとする人が約半数、12%は海外も可

ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加したい活動エリアは、「町内（町内会程度の範囲もしくは最寄り駅が同じ範囲）まで」（7%）、「市区町村内まで」（31%）、「通勤・通学圏内まで」（13%）の総計は51%となっているが、その一方で、その範囲を超えた回答も半数に近い。さらに「海外も可」との回答は12%となっている。（図17）

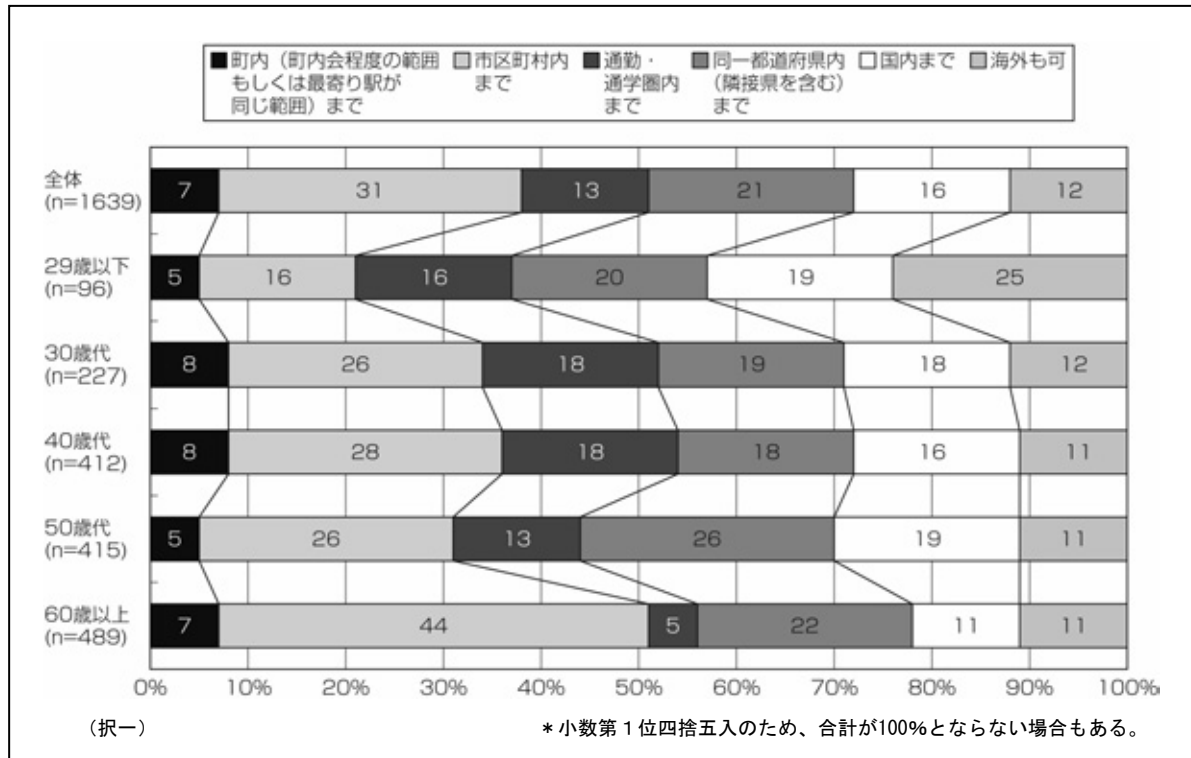
男女別（図17）では、同一都道府県内（隣接県を含む）を超える範囲を参加したいエリアとしている人は男性（30%）の方が女性（26%）よりも4ポイント高い。「海外も可」との回答は男女とも同じ割合（12%）である。

図17 参加したい活動エリア（全体・男女別）



世代別（図18）では、「海外も可」との回答は他の世代が11～12%であるのに対し、29歳以下では25%に達している。60歳以上では「市区町村内まで」が44%と、世代が上がるほど参加したい活動エリアは限定される傾向にある。ただし、子育てにめどがついた50歳代は、30～40歳代よりも広いエリアが志向されている。

図18 参加したい活動エリア（全体・世代別）



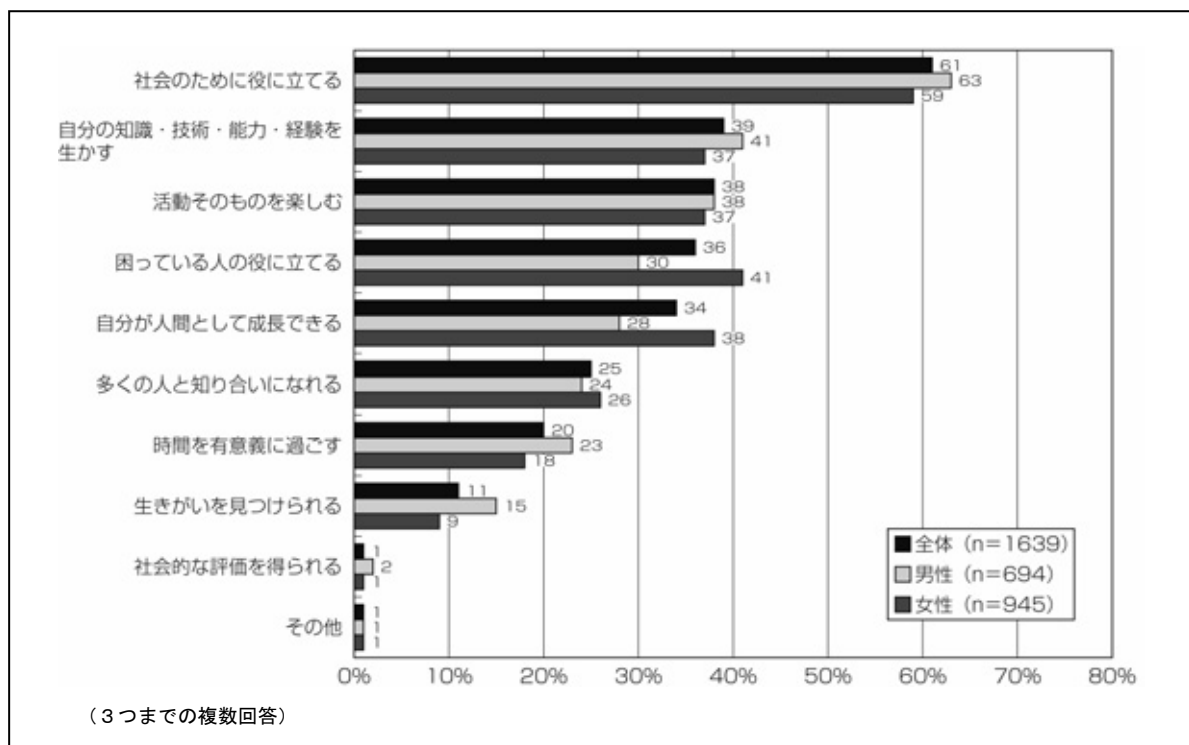
10. 参加する目的

ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加する目的は「社会のために役に立てる」が61%

ボランティア活動に参加する意向がある人のうち、参加する目的は「社会のために役に立てる」が61%となっている。以下、「自分の知識・技術・能力・経験を生かす」「活動そのものを楽しむ」「困っている人の役に立てる」「自分が人間として成長できる」が30%台で続いている。(図19)

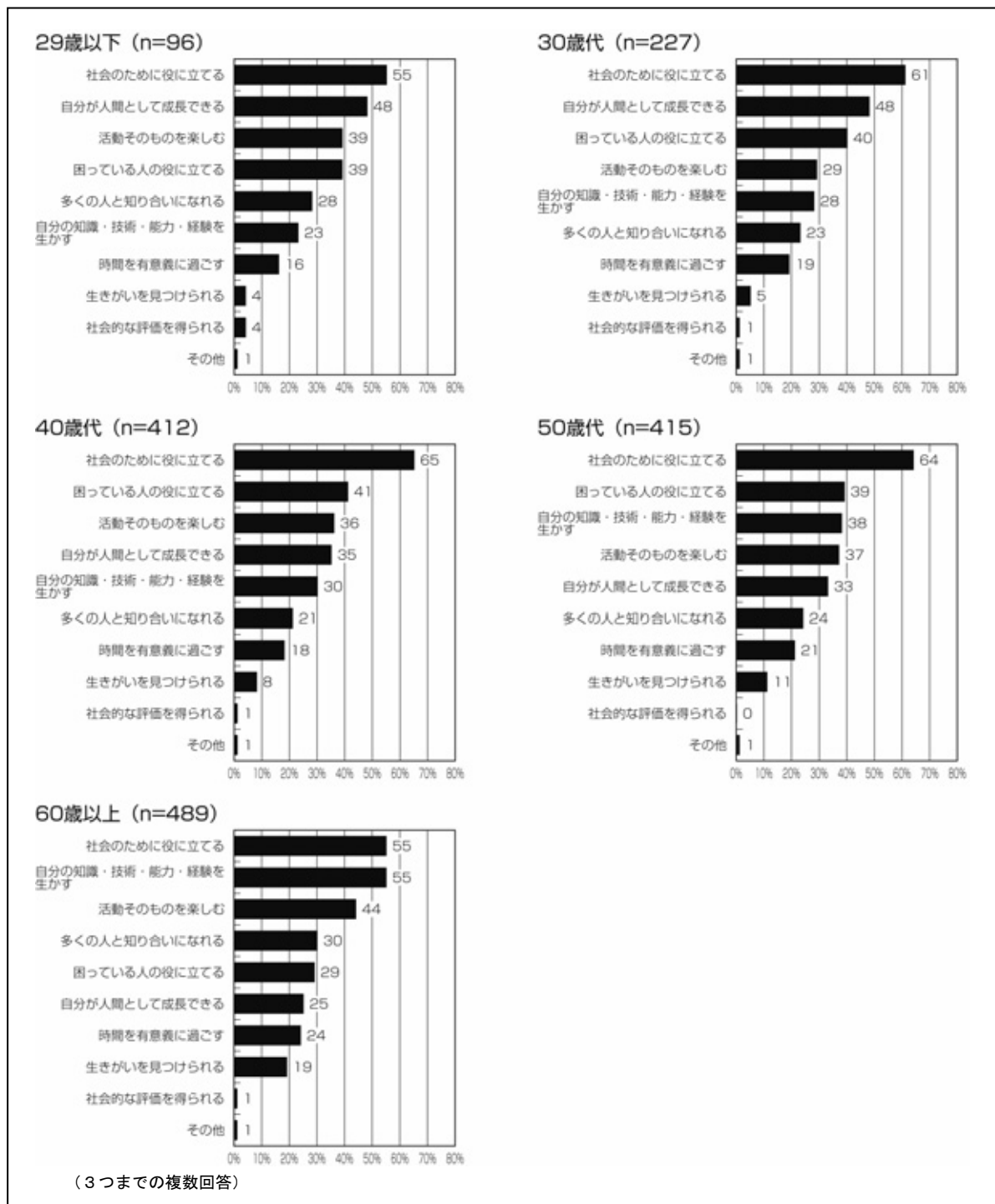
男女別(図19)では、男性が第2位「自分の知識・技術・能力・経験を生かす」、第3位「活動そのものを楽しむ」とボランティア活動を日常活動の従とする傾向が強いのに対し、女性は第2位「困っている人の役に立てる」、第3位「自分が人間として成長できる」と、ボランティア活動への参加に、より積極的な目的を見出している。

図19 参加する目的(全体・男女別)



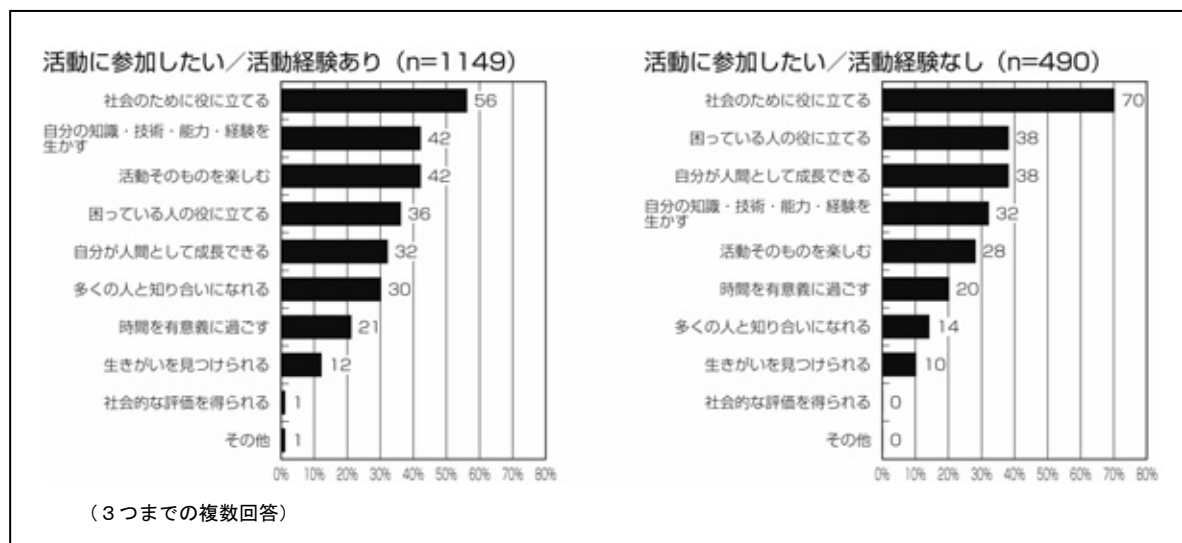
世代別（図20）では、いずれの世代でも「社会のために役に立てる」が最も多く挙げられているが、「自分が人間として成長できる」は若い世代ほど挙げる割合が高く、30歳代以下では第2位となっている。その一方で、「自分の知識・技術・能力・経験を生かす」は上の世代ほど高くなり、50歳代で第3位、60歳以上で第1位（同率）となっている。また「困っている人の役に立てる」は他の世代で4割前後であるのに対し、60歳以上では29%となっている。

図20 参加する目的（世代別）



ボランティア活動に参加する目的を活動経験別（図21）に見ると、「社会のために役に立てる」が活動経験の有無にかかわらずに第1位である。活動経験ありとの回答者では第2位「自分の知識・技術・能力・経験を生かす」、第3位「活動そのものを楽しむ」となっているのに対し、活動経験なしとの回答者では第2位「困っている人の役に立てる」「自分が人間として成長できる」となっている。活動経験のない人の方が、ボランティア活動への目的に、より積極的な意義を求めていると推測される。

図21 参加する目的（活動に参加したい／活動経験別）



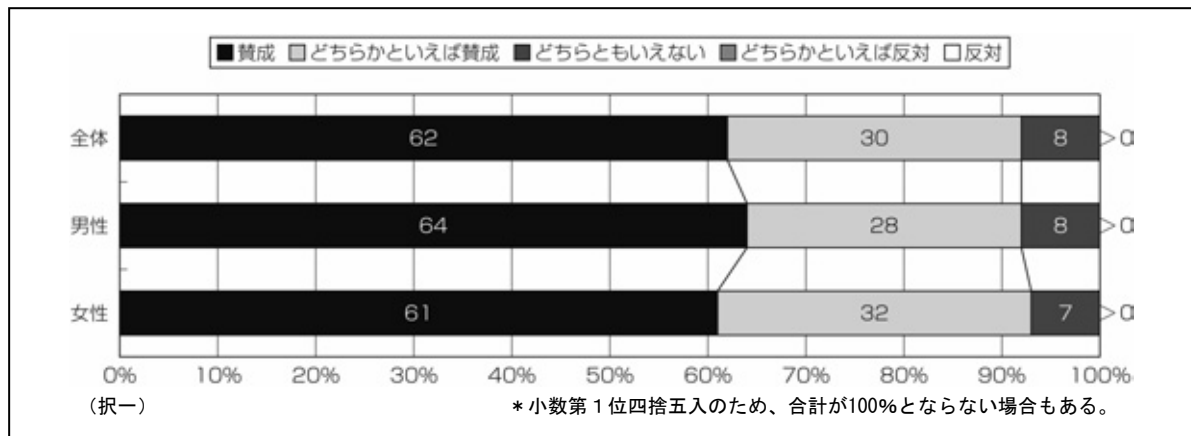
11. ボランティア活動が盛んになることへの賛否

ボランティア活動が盛んになることに「賛成（賛成／どちらかといえば）」が92%

ボランティア活動が盛んになることに「賛成」との回答は62%、「どちらかといえば賛成」（30%）を合わせると92%が評価している。（図22）

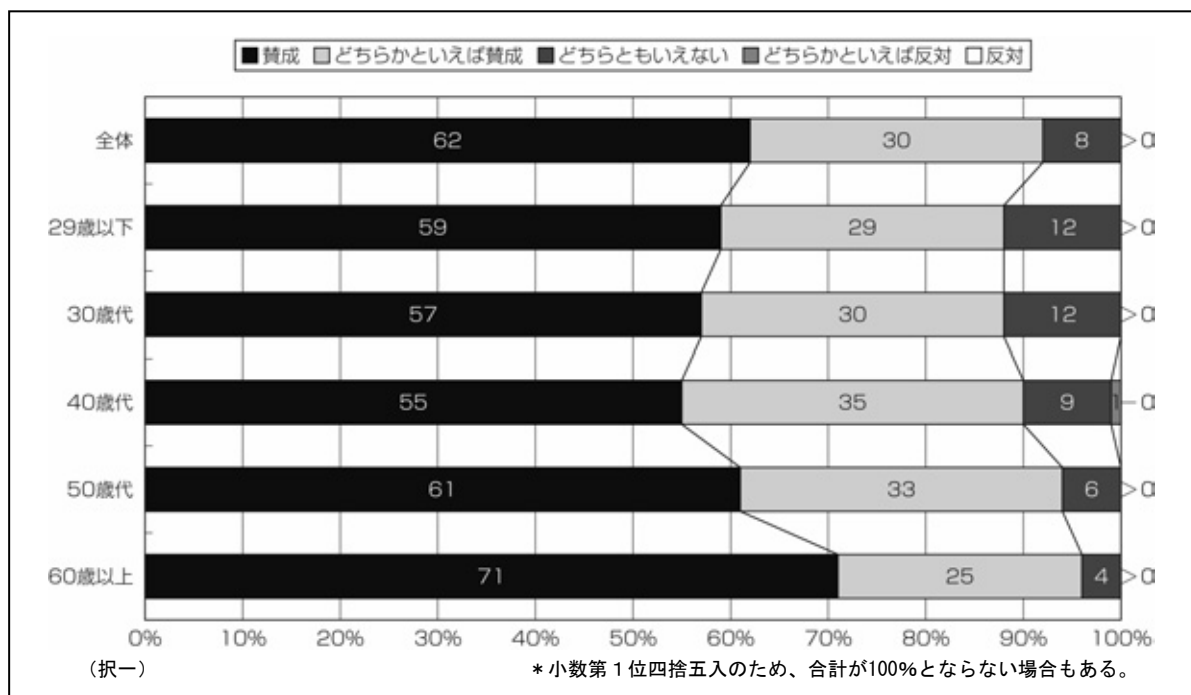
男女別（図22）でも、ほぼ同じ結果となっている。

図22 ボランティア活動が盛んになることへの賛否（全体・男女別）



世代別（図23）では、若い世代ほど「どちらともいえない」との割合が高くなっている一方、60歳以上では「賛成」との回答が71%となるなど、世代が上がるほど活動が盛んになることを評価する傾向にある。

図23 ボランティア活動が盛んになることへの賛否（全体・世代別）



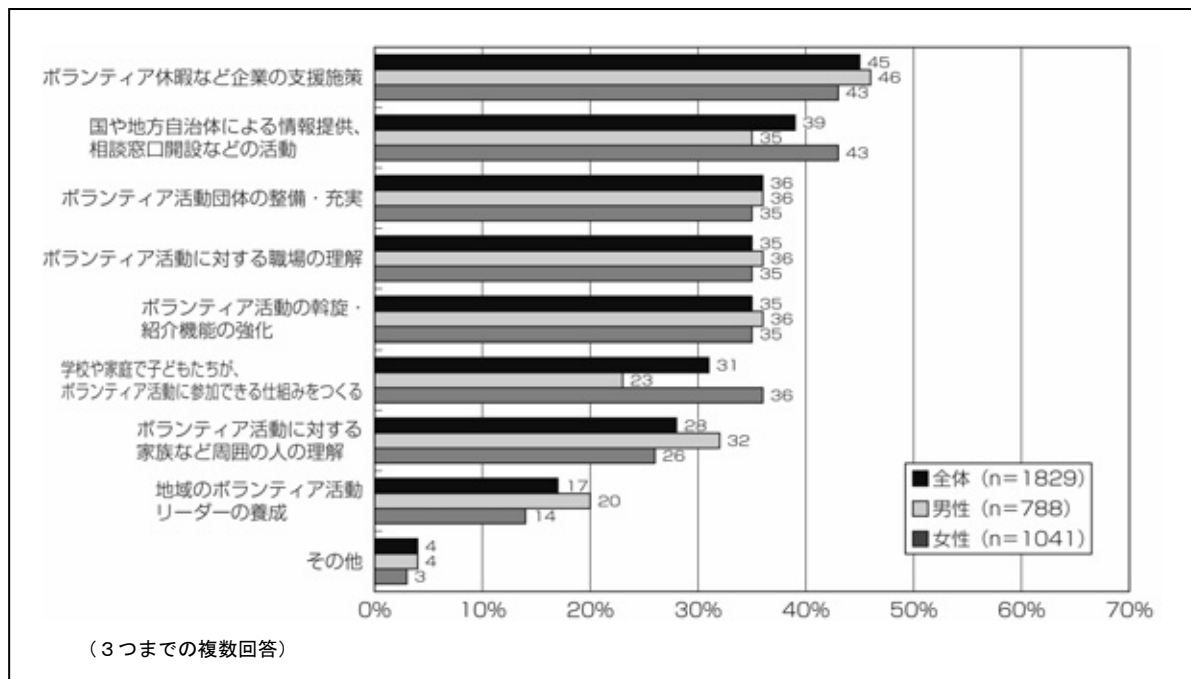
12. ボランティア活動が盛んになるための条件

ボランティア活動が盛んになるための条件は「ボランティア休暇など企業の支援施策」が45%

ボランティア活動が盛んになるための条件として、「ボランティア休暇など企業の支援施策」との回答が45%と最も多い。次いで「国や地方自治体による情報提供、相談窓口開設などの活動」「ボランティア活動団体の整備・充実」「ボランティア活動に対する職場の理解」「ボランティア活動の斡旋・紹介機能の強化」が30%台後半で続く。(図24)

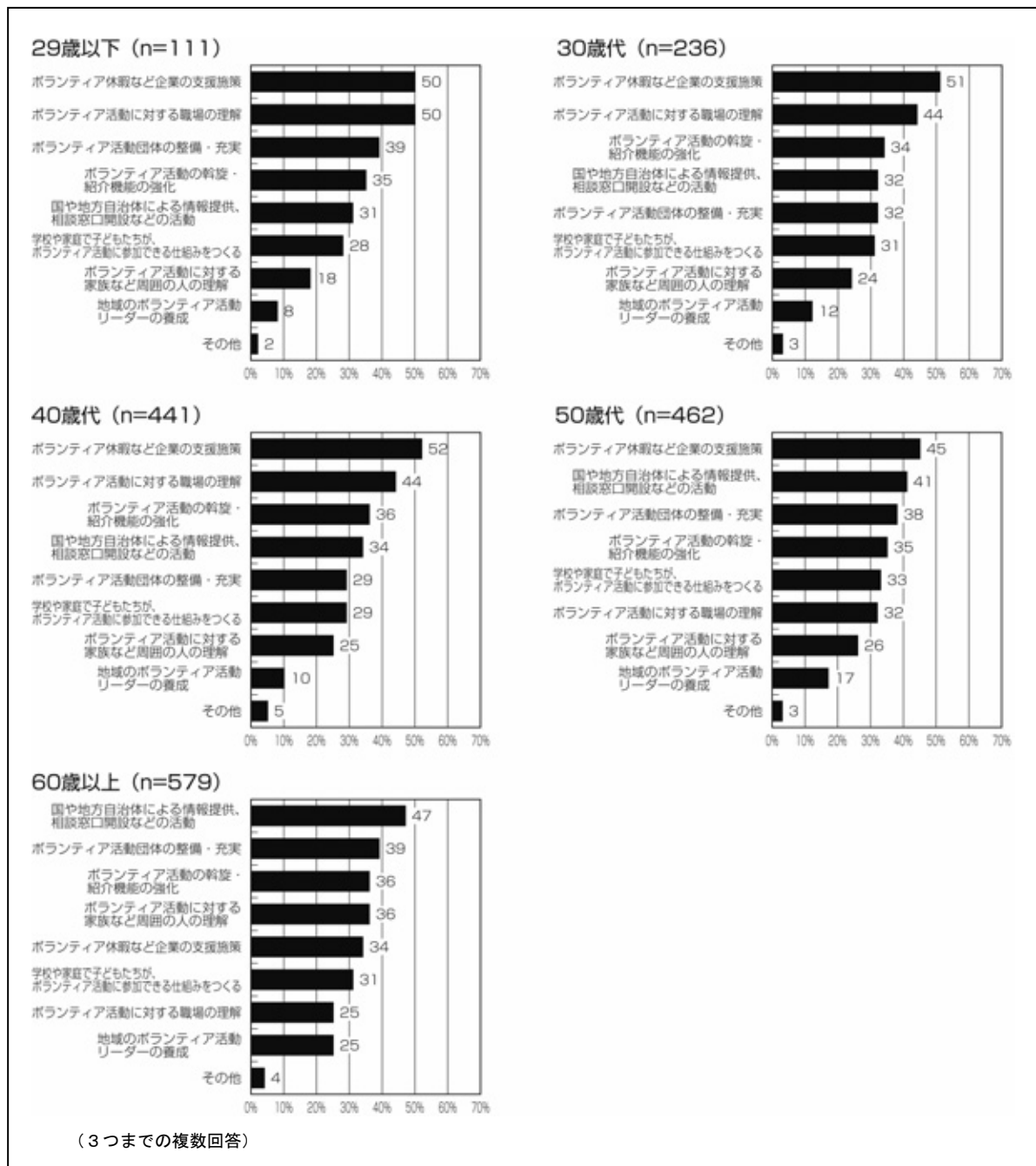
男女別(図24)では、女性の方が「国や地方自治体による情報提供、相談窓口開設などの活動」「学校や家庭で子どもたちがボランティア活動に参加できる仕組みをつくる」を条件として多く挙げている。

図24 ボランティア活動が盛んになるための条件(全体・男女別)



世代別（図25）では、60歳以上を除き「ボランティア休暇など企業の支援施策」との回答が最も多い。「ボランティア活動に対する職場の理解」は若い世代ほど高い割合で挙げられており、40歳代以下の各世代では第2位となっている。一方、60歳以上で最も多く挙げられている「国や地方自治体による情報提供、相談窓口開設などの活動」は世代が上がるほど挙げる割合が高くなっており、50歳代でも第2位となっている。

図25 ボランティア活動が盛んになるための条件（世代別）



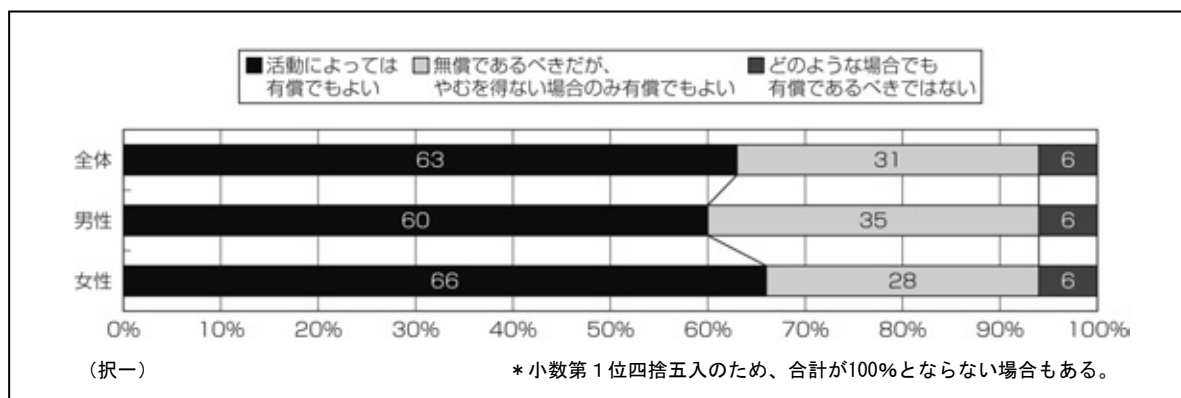
13. 有償ボランティアの是非

94%が有償ボランティアを容認

有償ボランティアの是非については、「活動によっては有償でもよい」との回答が63%、「無償であるべきだが、やむを得ない場合のみ有償でもよい」が31%と、合わせて94%が有償ボランティアを認めている。(図26)

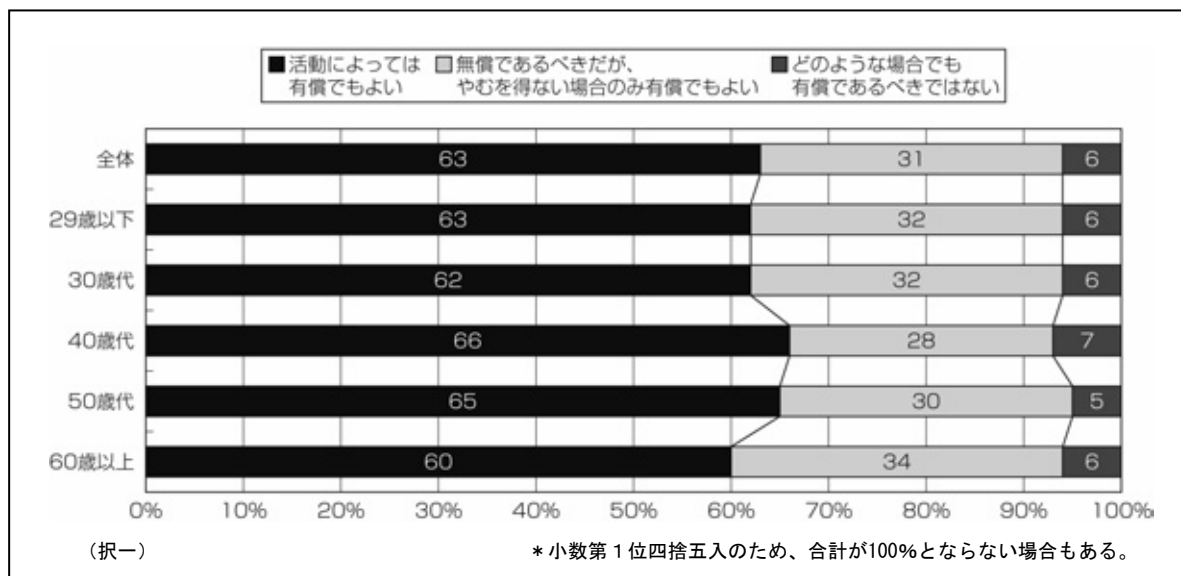
男女別(図26)では、女性の方が「活動によっては有償でもよい」との割合が6ポイント高いが、「どのような場合でも有償であるべきではない」は、男女の差がない。

図26 有償ボランティアの是非(全体・男女別)



世代別(図27)でも、「活動によっては有償でもよい」との回答が40~50歳代では高め、60歳以上で低めとなっているが、有償ボランティアを容認する傾向に大きな差はない。

図27 有償ボランティアの是非(全体・世代別)



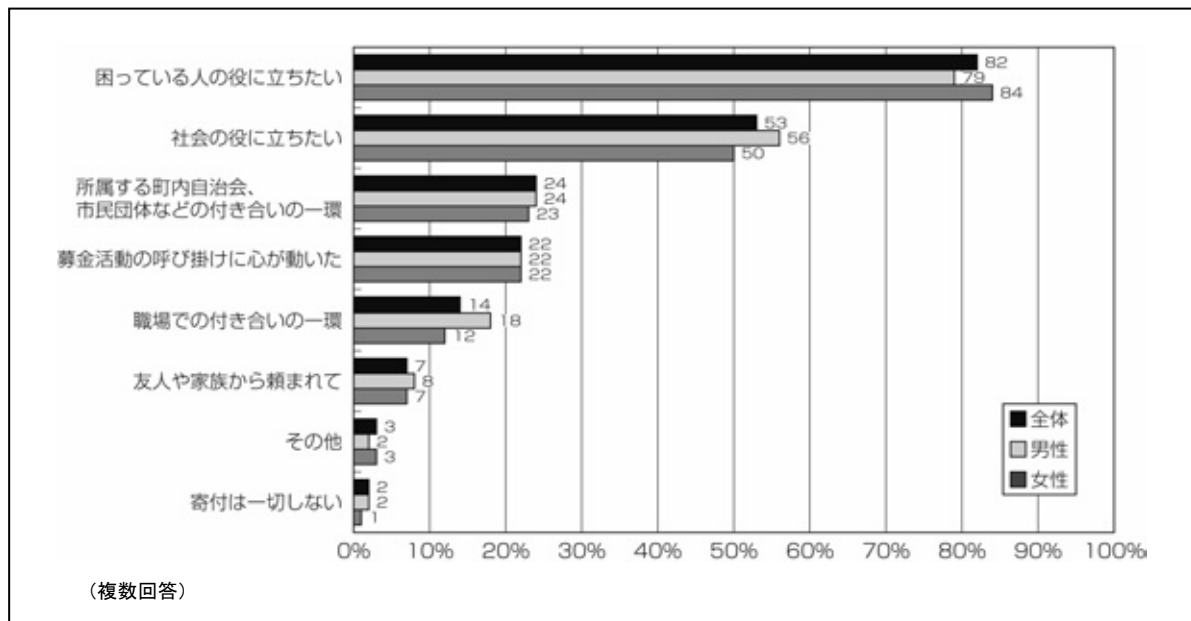
14. 寄付を行う動機

寄付を行う動機は「困っている人の役に立ちたい」「社会の役に立ちたい」が半数以上

ボランティア活動と併せて、寄付を行う動機について聞いたところ、「困っている人の役に立ちたい」が82%、「社会の役に立ちたい」が53%と半数を超えている。(図28)

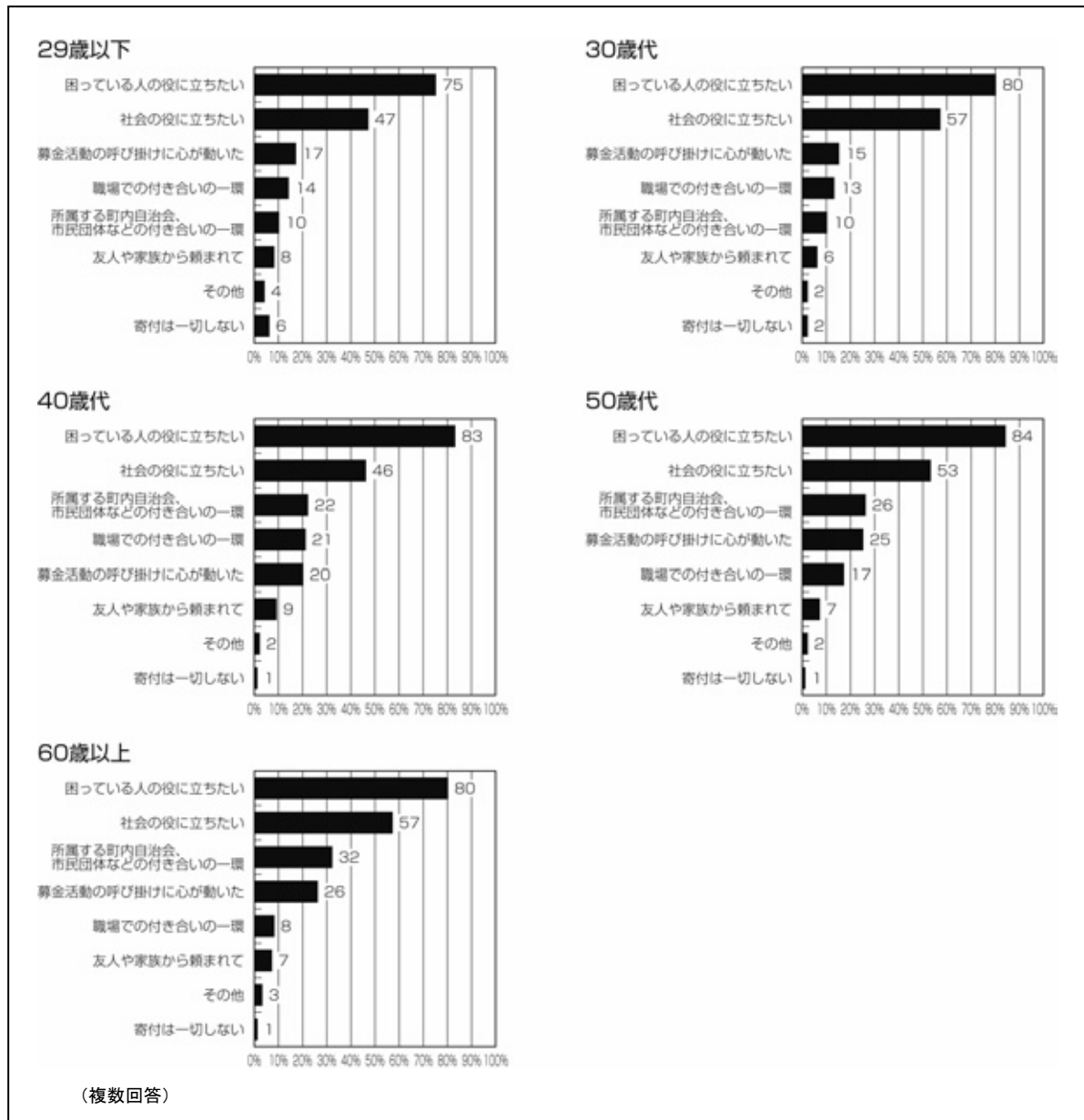
男女別(図28)では、「困っている人の役に立ちたい」は女性が5ポイント高いのに対し、「社会の役に立ちたい」は男性の方が6ポイント高くなっている。

図28 寄付を行う動機(全体・男女別)



世代別（図29）でも、すべての世代で「困っている人の役に立ちたい」「社会の役に立ちたい」が第1位、第2位となっている。30歳代以下で第3位となっている「募金活動の呼び掛けに心が動いた」は世代が上がるほど高い割合となる傾向であるものの、それ以上に「所属する町内自治会、市民団体などの付き合いの一環」の伸びが大きく、40歳代以上の第3位となっている。

図29 寄付を行う動機（世代別）



ボランティア活動に関する意識・実態調査報告書

2011年7月

発行／財団法人 経済広報センター 常務理事・事務局長 中山 洋

文責・担当：国内広報部 主任研究員 那須 寿

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

TEL：03-6741-0021 FAX：03-6741-0022